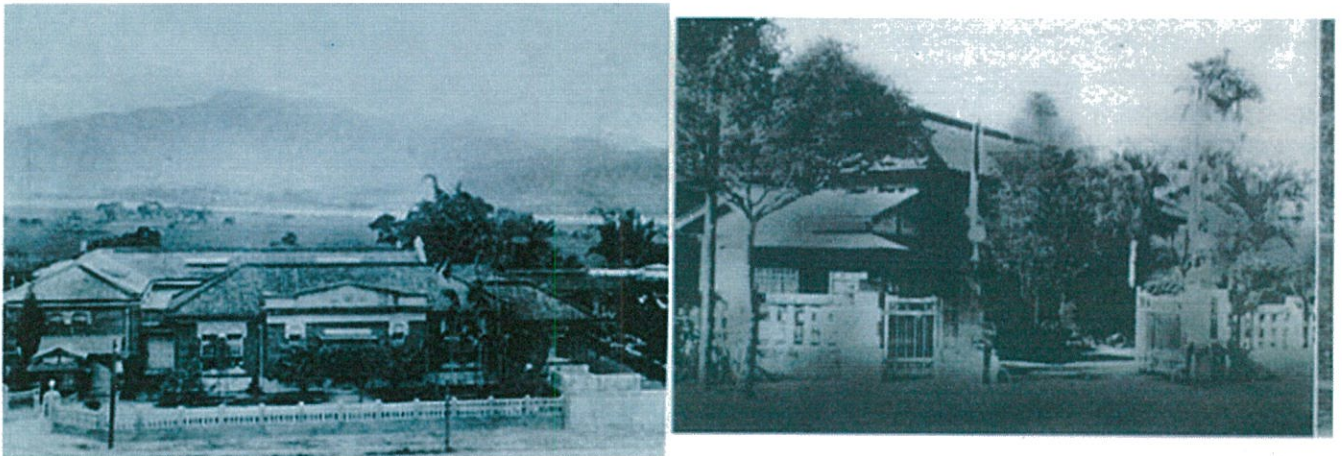


酒造所の紹介

埔里は最高品質の清浄な「台湾第一の水アイランド甘泉水」を持ち、恵まれた気候条件と、熟練の酒造技術（ベテランの酒造師）により、世界中で有名な「埔里美酒」を製造できるのです。

「埔里酒造所は民国6年（西暦1917年、日本統治時代の昭和6年）に設立され、元々は民間による酒造会社でした。しかし、民国11年には、日本統治時代における専売制度の実施により、台湾総督府によって買収され、台湾総督府の専売局である『埔里出張所』になりました。そして、民国46年2月1日には、『台湾省たばこ酒公共売局埔里酒造所』という名前に改名されました。」



西元1922年〔日大正天皇 嘉仁〕埔里出張所相片

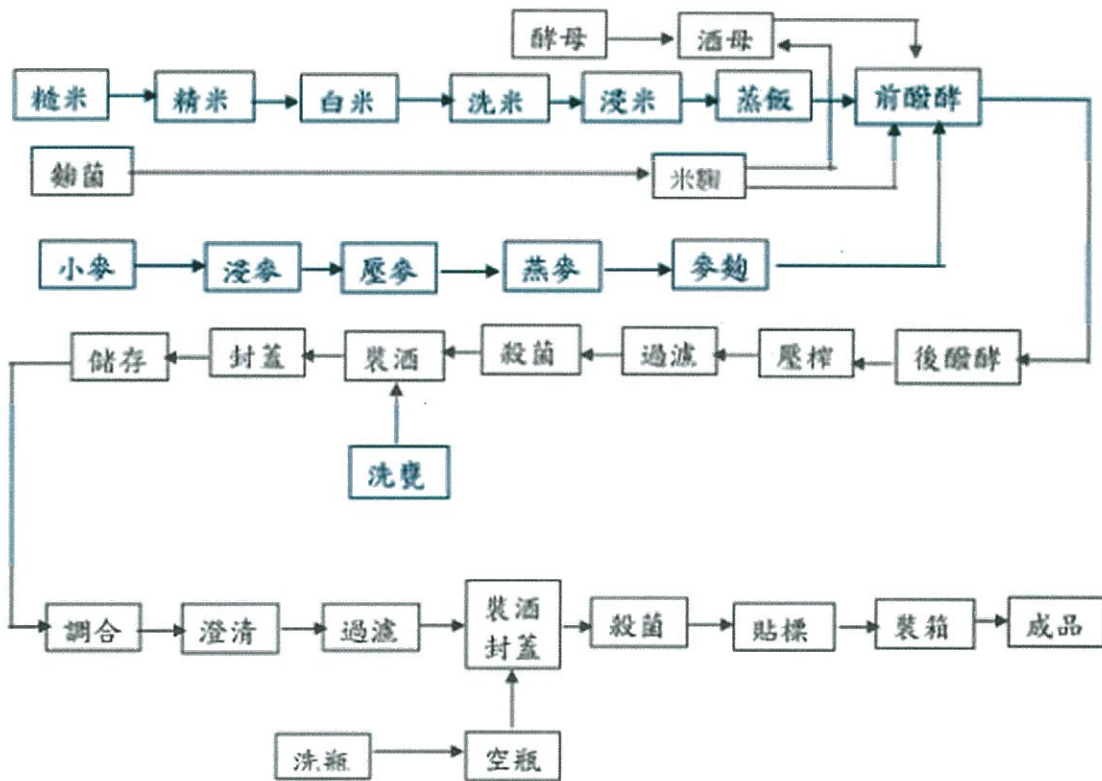
民国31年7月1日、台湾が世界貿易機関（WTO）に正式に加盟し、台湾省たばこ酒専売法が正式に廃止されたため、台湾省たばこ酒公共売局は「台湾たばこ酒株式会社」と改組され、この工場は「台湾たばこ酒株式会社プリ酒造所」と改名されました。

この工場は、光復初期にもちいて、もち米酒、米酒、台湾の特産品である太白酒、清酒を主に生産し、その生産量は限られており、プリ地域にしか販売されませんでした。しかし、民国41年に紹興酒を試作し、好評を得たことから、工場の増築と設備の拡充が行われ、民国55年からは低級アルコール飲料の生産が停止し、紹興酒の大量生産に専念するようになりました。

プリ紹興酒は、澄んだ黄色で輝き、芳醇で香り高く、世界30カ国以上に輸出されたことで高い評価を受け、かつて「世界食品審査協会」から最高の金メダルを受賞したこともあります。1970年代、最盛期には年間生産量が16万ヘクトリットルに達し、瓶詰め220万本に相当し、当時の台湾省たばこ酒公共売局の代表的な「宝物」と見なされ、「国酒」として扱われました。

経済部は時代の流れに対応し、観光工場を促進するための関連計画である「観光工場ガイドライン」を推進しており、この工場は102年に経済部工業局の観光工場認定を受けました。これにより、一般の人々は「生産工場の内部」を垣間見ることができ、産業の知識と地元の文化に対する理解を深めることができ、同時に伝統産業の再繁栄を促進しています。台湾観光工場の先駆けとして、伝説の中の観光工場であり、921地震後も立ち直る一助となりました。

プリ紹興酒



洗米



蒸し米



貯蔵



紹興酒の保存方法について、温度と湿度の制御だけでなく、保存容器の選択が非常に重要です。「甕（きょう）」は紹興酒の保存において最も一般的な選択肢であり、西洋のウイスキーが新酒に風味を与えるために樽を使用するように、紹興酒にとって甕は欠かせない存在です。紹興酒は陶甕の微細な孔の新陳代謝によって、アルコールの刺激を軽減し、酒のコクを増す効果があり、そのため、熟成すればするほど香りが増します。良質な甕が良い酒を醸造するのに必要であり、甕は酒にとって不可欠です。



「淬煉」酒

1999年9月21日、午前01:47、台湾全土が突如訪れた強烈な地震で、全ての住民が睡眠中から驚くべき地震で目を覚ました。埔里、当時の災害地域の一つで、埔里酒造所も地震の壊滅的な被害を受けました。酒造所内の「静思亭」の周りには以前のボトリングラインがあり、当時、長いキューを形成して酒造所の活気ある風景を構築しました。しかし、地震の影響でこれらの建物が倒壊し、両側の道路をつないでいた観光用歩道も地震で裂けました。これらの建物は解体され、現在では酒甕の形をした天橋や静思亭の背後に倒れたステンレス鋼の樽のみが残り、人々の思い出となっています。ボトリングラインは現在の場所で再建され、訪れる観光客を歓迎し続けています。



裏の駐車場は以前、広大な酒蔵倉庫だった場所で、つまり紹興酒の熟成場所でした。地震はこの場所に容赦なく打撃を与え、いくつかの酒蔵倉庫は完全に倒壊しました。構造がまだ比較的完全な部分（つまり現在残っている建物）も、中に積まれた紹興酒の甕は傾いたり崩れたりし、一片の混乱となりました。当時の従業員は壊れた壁の中で協力して現場を整理し、残されたまともな甕酒を再び積み直しましたが、救出された酒は約8万本しかありませんでした。地震前の酒の約10分の1しか残っていませんでした。



しかし、不幸にも災厄が続きました。翌年の3月8日、工場はまだ震災後の再建に忙しかった時、原因不明の火災が発生しました。火は迅速に各酒蔵エリアに広がり、一時は工場のオフィスビルの1階にある高アルコールの蒸留酒を保管する酒蔵にまで危険が及びました。現場の従業員は危険を冒して火源を断つ試みをしました。火災が拡大し、より深刻な災害を防ぐことに成功しましたが、地震後に救出された紹興酒も被害を受けました。もともと8万本あった酒は、大火の後に1万本しか残らなかったのです。そして、この1万本の酒は真空蒸留の後、前例のない「淬煉（洗練）」の傑作となりました。



「淬煉」は、試練を経て再生し、埔里酒廠が921地震と308火災を経ても立ち続ける象徴です。「淬煉」は、不要なものを取り去り、残りの精華を保つことを意味し、921地震と308火災の後に残った1万本の紹興酒は、真空蒸留によって輝かしいものに生まれ変わりました。